

卒業時の学生による教育環境評価 (第1報)

Evaluation of educational environment by students at the time of graduation (1st report)

原田 美枝子 前山 直美

Mieko HARADA Naomi MAEYAMA
(神奈川歯科大学短期大学部看護学科)

キーワード：看護学生 質問紙 教育環境 満足度

はじめに

教育課程すなわちカリキュラムとは学生たちが学校の目的に即して望ましい成長発達(変化)を遂げるために必要な諸経験を、彼らに提供する意図的、組織的な教育内容の全体計画である。¹⁾

各大学において、教育研究水準や活性化に努めると共にその社会的責任を果たすために大学の理念・目標に照らし、自ら教育研究活動等の状況について自己点検・自己評価を行い学校改善に努力している。^{2~4)} 本学においても同様にPDCAサイクルをまわしながら取り組んでいるが、カリキュラム評価は、担当領域の教員や学科内委員会であるカリキュラム委員会が中心に行われ、学生参加の評価がされていないのが現状である。

学生にとって学びやすいカリキュラムの構築がされていたかのソフト面や施設・設備などのハード面を含む教育環境について、卒業時の学生に対しアンケート調査を行ったので報告する。

I. 用語の定義

教育環境とは、施設・設備といったハード面のみならず、講義や課題活動などのソフト面を含む「大学における学びの場」すべてを示す。

II. 目的

卒業時の学生が感じている本学看護学科の教育環境を把握し、今後の教育環境の改善に向けての資料とする。

III. 研究方法

1. 調査対象

研究同意が得られた本学看護学科平成27年度卒業生男

受付日 2017年11月20日

受理 2018年1月31日

性5名、女性60名の合計65名を対象とした。

2. 調査期間

2017年3月

3. 調査方法

無記名自記式質問紙を看護師国家試験終了後配布した。質問紙の内容は「カリキュラム」9項目、「講義」17項目、「演習」11項目、「実習」11項目、「学習環境」7項目、「学習支援」6項目で50項目から

なる。最後に自由記載の欄を設けた。その項目に対して「満足している：4点」、「概ね満足している：3点」、「あまり満足していない：2点」、

「満足していない：1点」の4段階評定とした。「満足している」「概ね満足している」を肯定的評価として「あまり満足していない」「不満足」を否定的評価とした。

質問紙は教室内で一斉配布し、回収は回収箱を設置して協力を同意したものに提出を求めた。

4. 分析方法

4段階の項目ごとの回答を単純集計した。卒業時の教育環境評価について項目別に平均値を算出し、項目ごとの評価の高さを比較した。自由記載については、記述内容をカリキュラム評価のカテゴリー別に分類した。

IV. 倫理的配慮

本研究はA大大学研究倫理委員会の承認を得た後に実施した(承認番号第425)質問紙は無記名とし、調査の目的や意義、回答について個人が特定されることはないこと、調査協力は自由意思であり、研究に不参加でも不利益は生じないこと、結果は紀要論文で公表すること、回答は1年間保存し次年度のカリキュラム改善に用いることを口頭で説明し、回答が得られたものを同意したも

のとみなした。

V. 結果

卒業時の学生65名中55名（男性5名、女性50名）から研究同意を得ることができた（回収率85%）。有効回答55名（有効回収率100%）であった。

1. カリキュラム全体の評価（図1）

カリキュラム全体評価は図1の通りである。総平均3.03であった。各項目にみるとカリキュラム編成2.98、授業2.99、演習3.12、実習3.09、学習環境2.97、学習支援3.06であった。特に演習・実習は肯定的な評価であった。（表1）

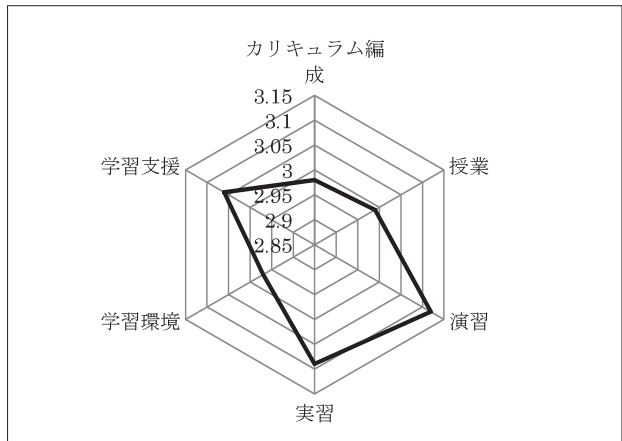


図1 カリキュラム評価

表1 各項目の平均評価

I. カリキュラム編成について

1)学習しやすい順序で科目設定されていた。	2.96
2)講義・演習・臨地実習は一貫していた。	2.93
3)基礎科目、専門基礎、及び専門科目のバランスは適切であった。	3.04
4)興味・関心のある科目が設定されていた。	3.09
5)各科目の学習量の配分は適切であった。	2.96
6)授業科目間で重複する科目が多かった。	2.95
7)3年間の時間割は適切でした。	2.96
8)時間割の組み方は適切であった。(テスト・課題)	2.91
9)主体性を尊重したカリキュラムであった。	3.05
平均	2.98±0.5

II 授業

1)内容は理解できる授業が多かった。	3.02
2)視聴覚教材・配布資料はわかりやすく、見やすかった。	2.95
3)興味深い授業が多かった。	3
4)教材がよく研究された授業が多かった。	2.95
5)しっかりと勉強しないと単位の取得は難しい授業が多かった	3.07
6)シラバスと授業の内容は連動していた。	3.13
7)専門的な知識が多くて身につく授業が多かった。	3.02
8)国際性が身につく授業が多かった。	2.75
9)視野が広がったり、新しい発見をする授業は多かった。	3.04
10)新しい分野について深く学ぶことは多かった。	3.05
11)授業の進度は適切であった。	3.07
12)講義形式の授業は多かった。	3.16
13)講義・グループワーク等工夫した授業は多かった。	3.04
14)教科書は有効に活用されていた。	2.93
15)授業中のルールは守られて、授業を受ける事ができた。	2.98
16)シラバスは学習を進めるにあたって役立った。	2.85
17)学習に必要な教材(視聴覚教材、モデル人形、標本)は充実していた。	2.95
平均	2.99±0.9

III 演習

1)講義と演習の内容配分のバランスはよかった。	3.05
2)演習の時間は適切であった。	3.07
3)演習の自主練習は適切であった。	3.02
4)演習内容は適切であった。	3.15
5)演習は実習に役立った。	3.16
6)教員のデモンストレーションはわかりやすかった。	3.13
7)技術試験(内容・回数)は適切であった。	3.13
8)視聴覚教材・配布資料の活用は有効であった。	3.09
9)教員は個々の技術指導に熱心であった。	3.13
10)演習グループの人数は適切であった。	3.24
11)演習に使用する教材(モデル・人形・模型)は整備は整備されていた。	3.25
平均	3.12±0.6

表1 つづき

IV 実習

1)オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うために役立った。	3.2
2)実習目標にそってに計画・実施・評価の流れに沿って指導してくれた。	3.18
3)教員は、患者の個性を取られて指導してくれた。	3.16
4)学生個々に合った指導をしてくれた。	3.13
5)教員・指導は、学生ひとりひとり平等に接してくれた。	3.09
6)教員・指導者は連携した指導内容であった。	2.96
7)実習施設の指導体制は整備され実習しやすかった。	3.05
8)実習グループ人数は適切であった。	3.15
9)実習施設の場所・期間は適切であった。	3.05
10)実習施設の整備は、実習環境として整っていた。	3.15
11)実習中の記録物・提出量は適切であった。	2.87
平均	3.09±0.9

V. 学習環境

1)教室環境(広さ・いす・机・ロッカー)は適切である。	2.85
2)自主学習ができるスペースがあった。	3.04
3)自主学習に活用する場所の利用時間は十分あった。	3.11
4)自主学習に利用可能なPC・機材は十分揃っていた。	3.04
5)図書館の蔵書種類・雑誌等は適切であった。	2.96
6)図書館・教室の休日開放・時間は適切であった。	2.93
7)売店・食堂の施設は整備されている。	2.91
平均	2.97±0.7

VI. 学習支援

1)国試対策(模試・補講・個別指導)は充実した指導が行われた。	3.04
2)教職員は学生の関心事に耳を傾けて近づきやすかった	3.15
3)オフィスアワーを利用して役立った。	2.91
4)学生生活における安全対策は充実していた。	3.15
5)チューター制度は学生生活を円滑に送るための助けになった。	3.09
6)就職・進学に関するサポートは充実していた。	3.02
平均	3.06±0.7

2. カリキュラム編成の評価 (図2)

カリキュラムの進捗、科目のバランス、時間数、興味のある科目の項目は、85%以上の項目は9項目中6項目あった。一方、「講義・演習・実習は一貫していた」78%、「時間割組み方への適切である」76%、「重複する科目は多かった」76%の3項目は低い評価であった。そ

の内容は、「講義と実習は一貫していなかった」、「科目によって時間変更が多く混乱した」、また、「カリキュラムは過密で余裕がなかった」と自由記載があった。全体評価の肯定的評価は87%で主体的なカリキュラムであったと回答していた。(表2)

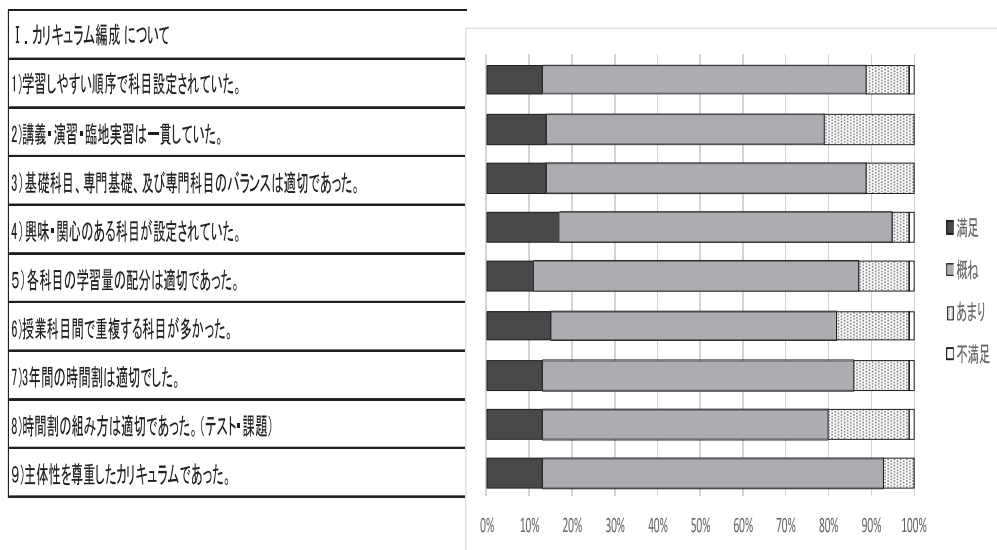


図2 カリキュラム構成

表2 カリキュラムの満足度

n = 55	
項目	人数
満足している	7 (13%)
概ね満足	41 (74%)
あまり満足でない、	5 (9%)
不満足	2 (4%)

2. 授業について (図3)

授業に関しては、肯定的評価86%であった。「満足度」の85%以上の項目は17項目中11項目であった。「興味深い授業が多かった」、「しっかりと勉強しないと単位の修得は難しい授業が多かった」、「学習に必要な教材は充実していた」、「シラバスと授業の内容は連動していた」、「講義形式の講義が多かった」等であった。その中で「国際性が身につく授業が多かった」74%、「シラバスは学習に役立った」78%で評価は低かった。また、評価の高い項目の中には「内容は理解できる授業であった」、「教科書は有効に使用されていた」、「資料が見やすかった」、「授業の進行は適切であった」、「授業中のルールは守られ授業を受ける事ができた」、「教材がよく研究された授業であった」等は、12～16%は否定的な評価であった。内容については、教員の話し方、速度、講義の進捗や資料の活用、課題の提示、授業態度の指導等の教授方法や教員の態度に差があると自由記載にあった。また、海外の医療・看護についての興味・関心が高く、「国際性が身につく授業」についての科目の開講や内容の工夫、海外で活躍している看護師に経験談を聞きたい等を要望していた。(表3)

2. 演習について (図4)

演習に関する全体の満足度の肯定的評価が91%であった。その中で85%以上の項目は、11項目中11項目であった。その中でも、演習時間、内容、教員の指導態度、視聴覚の活用などの項目は94%以上と肯定的な評価をしていた。「内容は理解できる授業が多かった」、「実習に役立った」、「実習前の自主練習がよかった」の項目であった。

一方、自由記載の中で否定的な意見として、「内容に不満・要望がある」、「演習時間が少ない」、「自主時間が少ない」、「デモストが見えなかった」、「技術時間や試験が少なかった」等の少数の記載があった。しかし、昨年、カリキュラム評価の結果、技術演習では、学生数に対して教員数が少ない、教授方法の統一性がない、教員のデモンストレーション指導がない、ビデオ・DVDの活用が少ない、技術演習の種類や組み方の問題、技術試験項目が少ないため看護技術習得の不安を感じる。教員の指導態度の否定的な意見が多かったが、今年度はあまりみられなかった。(表4)

表3 授業の満足度

n = 55	
項目	人数
満足している	8 (15%)
概ね満足	39 (71%)
あまり満足してない、	7 (13%)
不満足	1 (2%)

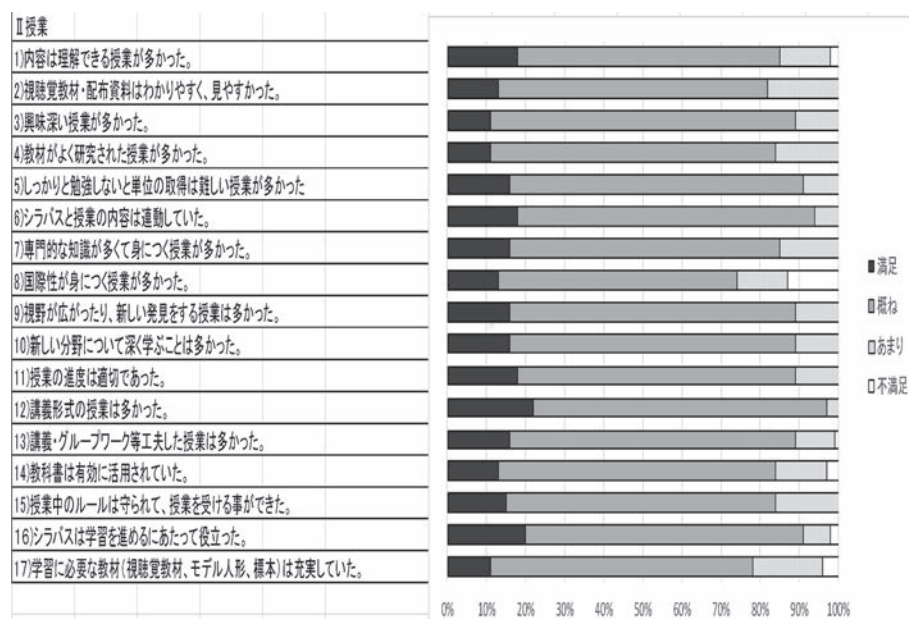


図3 授業

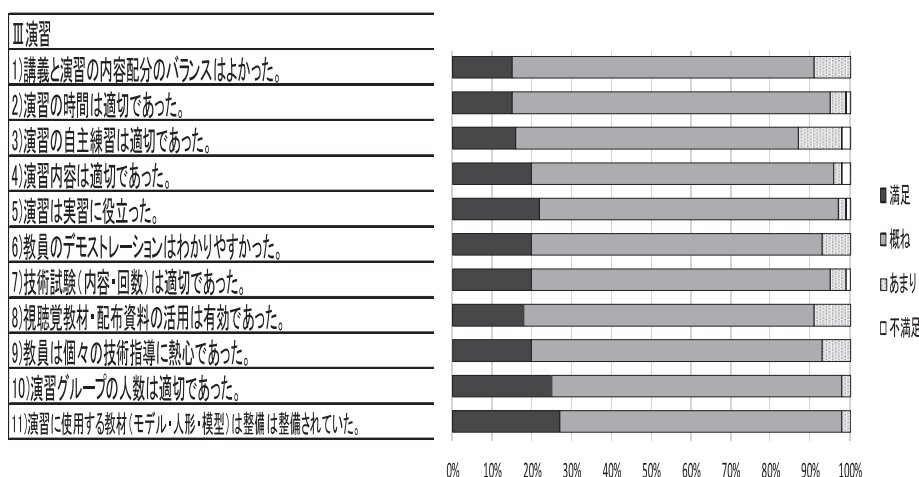


図4 演習

表4 演習の満足度

項目	人数
満足している	10 (18%)
概ね満足	40 (75%)
あまり満足でない	3 (5%)
不満足	1 (2%)

n = 55

2. 実習について (図5)

実習に関する満足度85%以上の項目は、11項目中10項目で高い評価であった。その項目はオリエンテーション、実習目標にそった指導、学生の個別性を捉えた指導、実習期間、場所などは適切であった等であった。全体評価の肯定評価は91%と高い評価であった。「教員指導」と「実習環境」でみると「教員指導」では、「個別指導に指導してくれた」、「教員は患者の個別性を捉えて指導

してくれた」等90%以上で肯定的な評価であった。各教員は実習効果が得られるように熱心に指導している様子が見られた。一方自由記載の中には、教員の指導力の差や教員間の連携不足、教員と指導者の指導内容や方法の違いに戸惑うことがあった等否定的な意見の記載があった。

「実習環境」についての項目は「実習しやすかった」、「実習人数が少数でよかった」、「実習施設・場所は適切であった」、「実習施設の設備は整っている」は90%以上で高い評価であった。

一方、「配置の不公平さ」、「実習場への交通費が負担」、「実習施設が遠い、自宅近郊を配慮してほしい」と学生個々の実習場所への配慮を希望する」等が自由記載にあった。中でも「実習記録・提出物は適切であった」の満足度は79%と低く、記録物が多いという否定的な意見をもっていたことが示唆された。(表5)

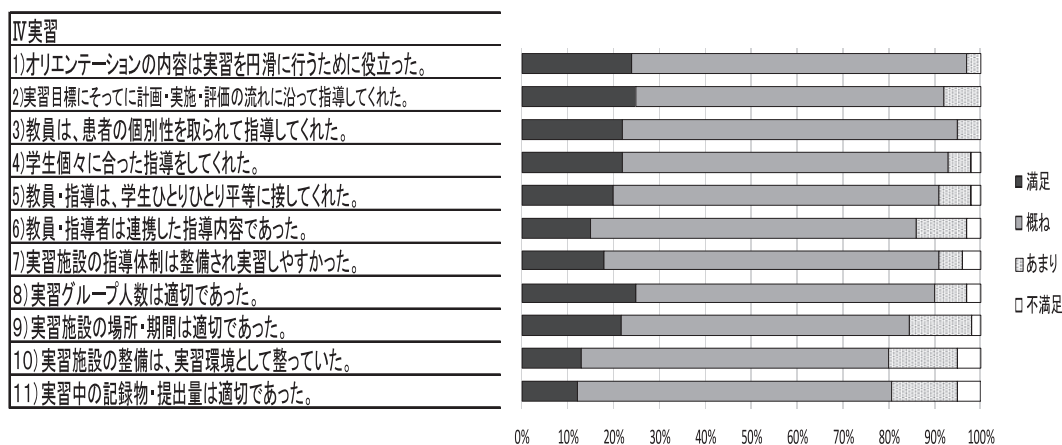


図5 実習

表5 実習の満足度

n = 55

項目	人数
満足している	11 (20%)
概ね満足	39 (71%)
あまり満足でない	4 (7%)
不満足	1 (2%)

4. 学習環境について (図6)

「学習環境」に関して満足度の85%以上の項目は、7項目中3項目であった。その項目は「自習室があってよかった」「教材があって学習しやすかった」、「図書館の蔵書の種類・雑誌等は適切である」であった。全体の肯定的な評価は83%で他の項目と比較すると低い評価であ

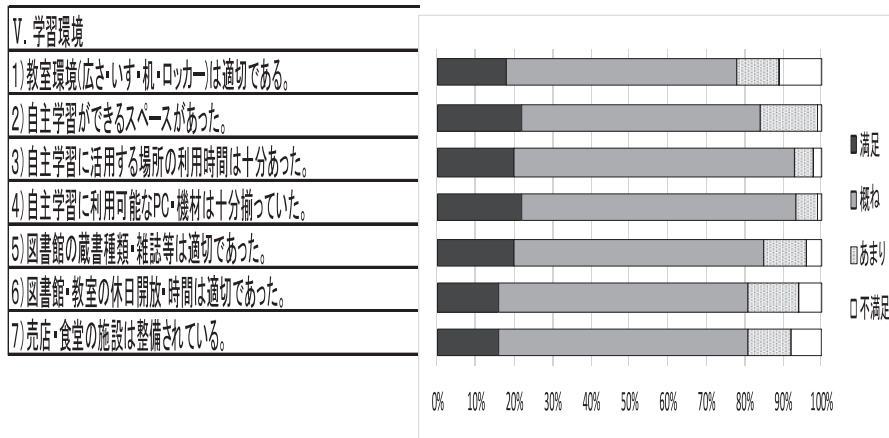


図6 学習環境

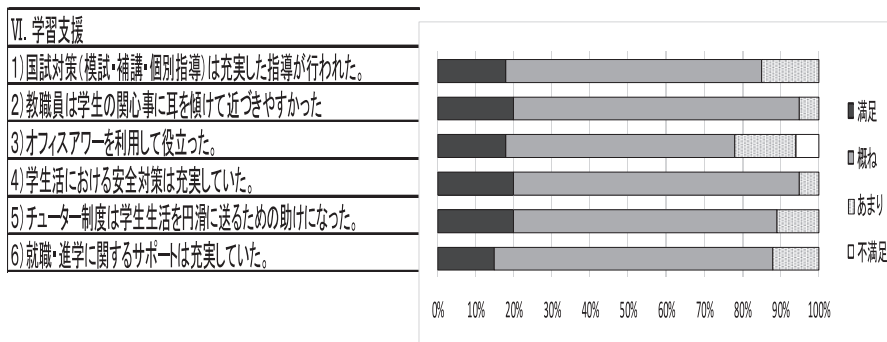


図7 学習支援

表6 学習環境の満足度

n = 55

項目	人数
満足している	10 (18%)
概ね満足	36 (65%)
あまり満足でない	6 (11%)
不満足	3 (5%)

表7 学習支援の満足度

n = 55

項目	人数
満足している	10 (18%)
概ね満足	38 (69%)
あまり満足でない	6 (11%)
その他	1 (2%)

た。肯定的に評価している反面、「自主学習ができるスペースがあった」、「自主学習時間は十分であった」、「図書蔵書の蔵書、特に看護系の蔵書は適切である」、「実習前に図書館希望」、「教室環境」などの学習環境と「売店・食堂の整備」について否定的な意見の記載があった。(表6)

5. 学習支援について (図7)

学生支援に関しての満足度は、平均評価87%であった。

「学生の関心事に耳を傾けて近づきやすかった」、「学校生活の安全対策は充実」、「チューター制度は役立った」、「就職・進学に関するサポートは充実している」、「国試対策は充実した指導であった」は85%以上であった。「国試対策」は、領域別教員による病態生理から看護に

連動し思考する補講内容や教員独自で作成した問題を解答、解説を繰り返し実施することで理解を深めた事、計画的な模擬試験の実施、苦手な科目の個別指導や学習方法の指導等の精神的支援を得られたなど肯定的な回答内容であった。また、「チューター制度」に関しては、チューター教員に国試対策の個別指導や進路相談を受けた。いつも声をかけてもらい精神的な支援を受けた等肯定的な回答があった。「オフィスアワーを利用して役立った」に関しては、78%と低く、教員は実習中で不在のため相談できなかったと自由記載があった。(表8)

6. その他について

学費・再試験料、学食メニュー等を再考してほしいなどの要望内容があった。その数少ない肯定的な意見としては、「大学での学習は大変だけれど、看護師を目指してよかった。」「本学を選んでよかった。多くの学びを得た」「ルーブリック評価はわかりやすく学習しやすい、評価も公平になる」「教員との距離感が近く親しみやすい」等の記載があった。(表8)

VI. 考察

1. カリキュラム全体について

今回、教育環境として、ハード面とソフト面の両面から、「カリキュラム」「講義」「演習」「実習」「学習環境」「学習支援」6項目について学生の意見・要望などの回答を得ることができた。

アンケートの結果、全体についての満足度は、85%以上が肯定的な評価が多く、学生は本学のカリキュラム全体には満足している事が分かった。しかし、本学において数多くの改善点が確認された。

「カリキュラム編成」については、科目間の関連性・順序性や重複科目が適切でない科目があると「あまり満足していない」「不満足」18%の回答があり、それによってカリキュラムが過密である事が指摘された。他の大学の調査結果においても^{2)~4)}科目間の関連性や順序性、重複科目がいくつもある事は、時間数の不足に繋がる事が指摘されている。それぞれの授業に内容まで吟味したカリキュラムの設計が必要である。さらに、生じた問題を補うためにも、カリキュラムを運用する教員が密に連携をし、教育内容の順序性や授業の構成に工夫を凝らす必要がある。

本学のカリキュラム委員会の検討したカリキュラム編成について、特に科目構成、順序性、重複内容、講義と演習との連続性、他の科目との連携、時間割の組み立て等について卒業生からも同様な指摘があり、カリキュラム見直しの必要性を示唆された。

「授業・演習」に関しては、授業内容や資料の工夫、教授方法に関する改善を求める回答が主であった。また、

「国際性が身につく授業が多かった」について「あまり満足していない」「不満足」14%と否定的な意見があり、国際性の身につく授業の要望が強く、「海外での看護事情、海外で活躍して看護師の実態を知りたい」という海外での活動も視野に入れた意向もあり要望が強かった。「しっかりと勉強しないと単位の取得は難しい授業が多い」と感じ看護師として専門的な知識を身に付けたい、また、演習や実習に活用できるように体制を考えると共に、教員の授業内容や方法についての要望が強くなったことが示唆された。その結果、「実習に役立った」と回答していた。このことから講義中心でなく、教科書の活用や資料・教材の工夫等を改善する事につながったと考える。さらに、学生自ら学ぶ姿勢の必要性も感じていたと考える。

「実習全体」に関して、実習施設をもたない本学では近隣の実習施設に恵まれ、充実した指導体制、丁寧な学生指導が得られており満足していた。しかし、80名余りの学生が7領域の実習を近隣の実習施設に集中して実施することは困難なため、遠方の実習施設を使用せざるをえない。そのため、学生および教員の実習場所・配置の不公平感、交通費自己負担額の不公平感、教員間連携不足があったと考える。また、実習記録物が多い等、否定的な意見や要望が今年度も挙がっていた。実習施設と協力しながら、学生の意見や要望を叶えた実習環境の整備に努め改善していく必要があることが示唆された。

2. 学習環境に関して、

本学は、「主体的に、自ら学ぶ」とする自己学習を前提としたカリキュラム設計をしている。そのため効果的なカリキュラム運用に向け、自己学習を支援するための学習環境の整備は大切となる。

学習環境は、自習室、図書館の使用時間の開放時間が拡大され、学習環境への整備はされつつある。しかし、学生数から比較しても自習室不足はいなめない。課題学習や前期・後期定期試験の準備、国家試験の準備や対策に学生たちは部屋の確保に苦労しながら学習している状況もある。さらに、看護系図書蔵書数が不足しているため、学習や実習で活用することができない。また、開放時間の延長は拡大されているが教室・図書館の休日の開放時間の延長等要望も強くあり検討する必要がある。

学習設備・備品の中で、机・いすはかなり老朽化し木製で硬く小さい、1日7時間、教室で講義を受けるには、硬く疲れやすく学習効果を得られない、また看護学科では講義の中でグループワークが多く、机が固定されているため困難さがあった。学習用品や実習着を保管するには、ロッカーが小さいという意見もだされていた。教室の設備や備品については、本学に設置されている目安箱には、在校生からの多くの要望意見が出されている。早

急に教室のハード・ソフト面の整備や改善が望まれる。また、学部間・学科間の不公平感を指摘する意見があった。同じ大学で学ぶ学生の権利として、平等な学習環境の提供は当然の要望であると考ええる。

国家試験対策に関しては、多くの学生は「満足である」と回答していた。毎年100%の合格を目指して学生・教員共に取り組んできている。具体的な内容として1年生、2年生の国試対策として、国家試験に慣れるように低学年模試を実施、そして模試結果や苦手科目は、チューター教員が主に個別指導、夏休みには補講等を実施している。3年生は、国試対策として、業者の講義・模試、そして学生同志が協力し、学べるようにグループ学習を導入している。さらに、国家試験の学習に専念できるようにカリキュラム調整を実施。強化対策として領域別の補講学習などを取り入れた結果、模試成績も上がり、国家試験学習への効果に繋がったと考える。学習支援として、本学の特徴であるチューター制は、「チューターの先生に支援を多く受けた」と回答から学生への心強い味方であったと肯定的な意見が得られている。学生達は「教員と学生間の距離が近い」「なんでも相談しやすい」という意見は、公私共に近づきやすく・頼りになる存在であったと考えられている。

3. その他

自由記載については、肯定的な意見は少なく、改善してほしいという要望が多く記載されていた。

VI. 結論

看護学科カリキュラムを終了した3年生を対象にカリキュラム評価を行った。

1. カリキュラム、授業・演習・実習に関しては、学生は概ね満足していた。しかし、カリキュラムの見直しや教授方法の工夫、教員間の連携、実習施設の開拓等の改善が必要である。
2. 学習支援に関しては、1年生から計画的に取り組まれ、国家試験への心の準備や学習が積み重ねられ学習効果があった。また、各教員の支援を受けることができた。
3. 学習環境に関しては、学習設備・備品不足、自習室不足、看護系の図書の種類と冊数の不足などの要望が強く記載されていた。

VII. 課題

今回、カリキュラム評価は、学生による評価である。客観性が担保されていない。今後質問用紙の内容や測定方法などのさらなる検討が課題である。

終わりに

今回、教育環境の調査から「カリキュラム編成」「授業」「演習」「実習」「学習環境」「学習支援」について学生アンケート結果と意見を多く得ることができた。特に自由記載内容から本学の学校生活全体において改善すべき点が数多く確認された。この資料を基にカリキュラム検討・FDにおいて取り組み、早急に改善されることで、本学の教育環境を充実させることが、学生が「この大学に来てよかった」と満足が得られることになる。また、年々18才人口は減少し、近郊には大学・専門学校が多くできてきている状況である。より良い学生を確保するためにも魅力ある大学づくり、学生の満足度を上げていくためには早急な教育環境の改善は必要不可欠である。今後、この資料を基に、看護学科において、教育環境の改善に努めたい。

VIII. 謝辞

今回、教育環境の調査に協力して頂いた8期生の皆さんに感謝いたします。

引用文献

1. 杉森みどり：看護教育学 3 版79, 医学書院, 東京, 1999
2. 高島尚美：カリキュラム評価の意義と展望「新カリキュラム評価の視点と方法」藤岡寛治／[看護教育] 編集室編, 6-12医学書院 1996
3. 小澤美智子、助川尚子、菊田文夫他：卒業時の学生によるカリキュラム評価、聖路加看護大学紀要26、33-44、2000
4. 黒田裕子、浜田悦子、池川清子：日本赤十字看護大学における第3次カリキュラム評価に関する報告、日本赤十字看護大学紀要16、45-53、2002
5. 及川郁子、菱沼典子、亀井智子他、2000年～2004年度のカリキュラム総括評価—その1、4年ごとの評価より—聖路加大学紀要32、59-64、2005
6. 前掲2)
7. 前掲3)
8. 前掲4)
9. 奥田美恵、関谷由香里、矢野朱他、：第1期生卒業及び教員による愛知県医療技術大学カリキュラム評価、愛知県立医療技術大学紀要、5巻、第1号、75-86、2008
10. 三島三代子、田原和美、吉川洋子他：看護学科学生によるカリキュラム総括評価、島根県立大学短期大学部出雲キャンパス研究紀要第4巻、54-64、2010
11. 雄西智恵美、石井美里、岩永秀子他、：東海大学健康科学部看護学科におけるカリキュラム評価システム構築—、卒業時の学生によるカリキュラム評価ア

- ンケートの作成一, 東海大学看護科学部紀要第8号, 53-58, 2002
12. 鈴木牧彦、小島佐恵子：平成22年「北里大学における学習等に関するアンケート」調査結果概要, 北里大学紀要第23, 1-12, 2010
 13. 大島弓子、五十嵐慎二、古賀節子、永井邦芳他：カリキュラム改正の検討過程とその結果、豊橋創造大学紀要第20号47-65 2016
 14. 2015年学生満足度に関する調査結果、山梨大学紀要第30号、2015
 15. 五十嵐慎治、大島弓子、古賀節子他：2015年度卒業

- 生によるカリキュラム評価—看護大学生の卒業時の不安に焦点をあてて—豊橋創造大学紀要21、91-99, 2017
16. 川越博美、有森直子、射場豊子：教員によるカリキュラム評価、聖路加大学紀要27, 87-97, 2001

著者への連絡先：原田美恵子 〒238-8580 神奈川県横須賀市稲岡町82番地 神奈川歯科大学短期大学部看護学科
 TEL：046-822-8790 FAX：046-822-8787
 E-mail：harada@kdu.ac.jp.

表8 自由記載

カリキュラム	講義と実習が一貫してなくて、資料の活用ができなかった
	2年生の後期は、各領域の課題が重なり大変だったので分散し入れてほしい
	シラバスの内容が、科目により変更が多く混乱した
	時間変更が多く、混乱した。早めの連絡や掲示をしてほしい。
	科目が終了したら、すぐ試験をしてほしい。前期・後期になるとまとめでの試験なので、科目が多くなり学習が追いつかない。
授業	講義中、私語が多く学習に集中できない、注意もせず授業を進められると困る学習環境の調整をしてほしい
	国際科目が少ない、海外事情が国際科目に鳴るのか疑問である。
	国際科目を増やしてほしい
	海外で活躍している看護師の話や聞き、海外事情を知りたい
	これから海外で働く人も多くなるので、国際科目を増やしてほしい
	講義内容が単調である。もっと興味のある講義を工夫してほしい
	資料が多く、活用できない。教科書を使用してほしい
	基礎科目は単調で、もっと臨床に即した内容を教えてほしい。
	基礎科目の選択科目を多く入れてほしい。
	臨床とつながりがなく、ただ、名前を覚えるのは興味もてない、面白くない
演習	基礎看護学の看護技術は現場では活用できない。臨床に即した技術を教えてほしい
	教員のデモンストレーションは見えない。学生が見えるようにTVを活用してほしい。
	看護技術は講義が多く、演習時間が少ない。先生間の技術を統一してほしい。
	看護間で先生の仲が悪いようで学生の前で、言い争いをやめてほしい
	技術は、学生が理解できるように指導してほしい
	演習中、デモストの内容と違った指導されると混乱する。
	教員の悪口は、学生の前でやめてほしい
	演習に使用する教材やモデルが少ないので整備してほしい。
実習	教員は、臨床で援助を一緒にやってほしい。
	実践能力の低い先生は、実践力をつけて指導してほしい。
	その場、その場で指導内容が違うのは、学生は混乱する
	たまに、実習場に来て、ずれた指導をされると困る。患者を知らないのに
	教員の価値観で指導するのは、やめてほしい 学生の考えを尊重してほしい。
	教員と指導者の連携を密にほしい
	実習中、教員の居場所が分からず困った。居場所を明確にしてほしい
実習いく前に、演習を入れてほしい	

資料：アンケート内容

このアンケートは、卒業を控えた皆様に看護学科の学習環境の状況をお尋ねし、本学の教
 壇をより良く改善することを目標とするものです。
 本学で感じたままをお答えください。あなたの気持ちに最も近い番号を括弧に入れて下さい
 ※該当するものに○をつけて下さい。

4:満足している 3:概ね満足している 2:あまり満足していない 1:満足していない

I. カリキュラムについて

- | | | |
|---------------------------------|---------|----------------------|
| 1)学習しやすい順序で科目設定されていた。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 2)講義・演習・臨地実習は一貫していた。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 3)基礎科目、専門基礎、及び専門科目のバランスは適切であった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 4)興味・関心のある科目が設定されていた。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 5)各科目の学習量の配分は適切であった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 6)授業科目間で重複する科目が多かった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 7)3年間の時間割は適切でした。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 8)時間割の組み方は適切であった。(テスト・課題) | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 9)主体性を尊重したカリキュラムであった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |

II 授業

- | | | |
|-------------------------------------|---------|----------------------|
| 1)内容は理解できる授業が多かった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 2)視聴覚教材・配布資料はわかりやすく、見やすかった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 3)興味深い授業が多かった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 4)教材がよく研究された授業が多かった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 5)しっかりと勉強しないと単位の取得は難しい授業が多かった | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 6)シラバスと授業の内容は連動していた。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 7)専門的な知識が多くて身につく授業が多かった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 8)国際性が身につく授業が多かった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 9)視野が広がったり、新しい発見をする授業は多かった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 10)新しい分野について深く学ぶことは多かった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 11)授業の進度は適切であった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 12)講義形式の授業は多かった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 13)講義・グループワーク等工夫した授業は多かった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 14)教科書は有効に活用されていた。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 15)授業中のルールは守られて、授業を受ける事ができた。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 16)シラバスは学習を進めるにあたって役立った。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 17)学習に必要な教材(視聴覚教材、モデル人形、標本)は充実していた。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |

IV 実習

- | | | |
|------------------------------------|---------|----------------------|
| 1)オリエンテーションの内容は実習を円滑に行うために役立った。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 2)実習目標にそってに計画・実施・評価の流れに沿って指導してくれた。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 3)教員は、患者の個性を取られて指導してくれた。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 4)学生個々に合った指導をしてくれた。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 5)教員・指導は、学生ひとりひとり平等に接してくれた。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 6)教員・指導者は連携した指導内容であった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |

- | | | |
|---------------------------|---------|----------------------|
| 7)実習施設の指導体制は整備され実習しやすかった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 8)実習グループ人数は適切であった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 9)実習施設の場所・期間は適切であった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 10)実習施設の整備は、実習環境として整っていた。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 11)実習中の記録物・提出量は適切であった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |

V. 学習環境

- | | | |
|-----------------------------|---------|----------------------|
| 1)教室環境(広さ・いす・机・ロッカー)は適切である。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 2)自主学習ができるスペースがあった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 3)自主学習に活用する場所の利用時間は十分あった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 4)自主学習に利用可能なPC・機材は十分揃っていた。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 5)図書館の蔵書種類・雑誌等は適切であった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 6)図書館・教室の休日開放・時間は適切であった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 7)売店・食堂の施設は整備されている。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |

VI. 学習支援

- | | | |
|---------------------------------|---------|----------------------|
| 1)国試対策(模試・補講・個別指導)は充実した指導が行われた。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 2)教職員は学生の関心事に耳を傾けて近づきやすかった | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 3)オフィスパワーを利用して役立った。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 4)学生生活における安全対策は充実していた。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 5)チューター制度は学生生活を円滑に送るための助けになった。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |
| 6)就職・進学に関するサポートは充実していた。 | 4・3・2・1 | <input type="text"/> |

※自由記載欄(意見や要望があったら自由にお書きください。)